

棚尾地区まちづくり事業  
平成25年8月21日（水）19時～  
棚尾公民館3階

## 第26回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

- 1 前回までのテーマに関する参考意見など  
杉浦治助、光照寺弁天池、永坂奎兵衛、料理など
  
- 2 テーマ47 「大正～昭和初期の棚尾の活況」
  - (1) 説明（磯貝国雄）
  
  - (2) 出席者による補足説明、感想など
  
- 3 連絡事項・情報交換など
  
- 4 次回日程  
第27回 9月25日（水）午後7時から  
「チャラボコ」  
第28回 10月23日（水）午後7時から  
「棚尾の消防」「名倉半太郎所蔵俳句短冊集」

## テーマ47 「大正～昭和初期の棚尾の活況」

### 1 要旨

大正時代が始まって今年で100年になる。大正から昭和初期にかけて、棚尾の歴史を振り返ってみると、大きく躍進した時代だったことが分かり、先人達の意気込みやご苦労に驚かされる。

三河鉄道が最初は大浜港駅まで開通し、続いて延伸し棚尾駅ができた。棚尾橋は主要部分が鉄筋コンクリートで架け替えられ、当時、愛知県内の模範橋といわれた。源氏町にあった役場は汐田町へ移転し、名称も棚尾村から棚尾町へ移行。記念して鉄製の火の見やぐらが造られ、まちのシンボルとなった。

八柱神社では、境内の拡張、棚尾神社の創建、太鼓橋の建設、弥生の井の命名、大鳥居始め多くの奉納物により整備が進んだ。

文化面では、永井賓水を中心とする棚尾俳壇が隆盛を極め、高浜虚子が二度も来棚、藤井達吉も応援を惜しかなかった。敬老会、盆踊り、福助踊りが始まったのもこの時期である。

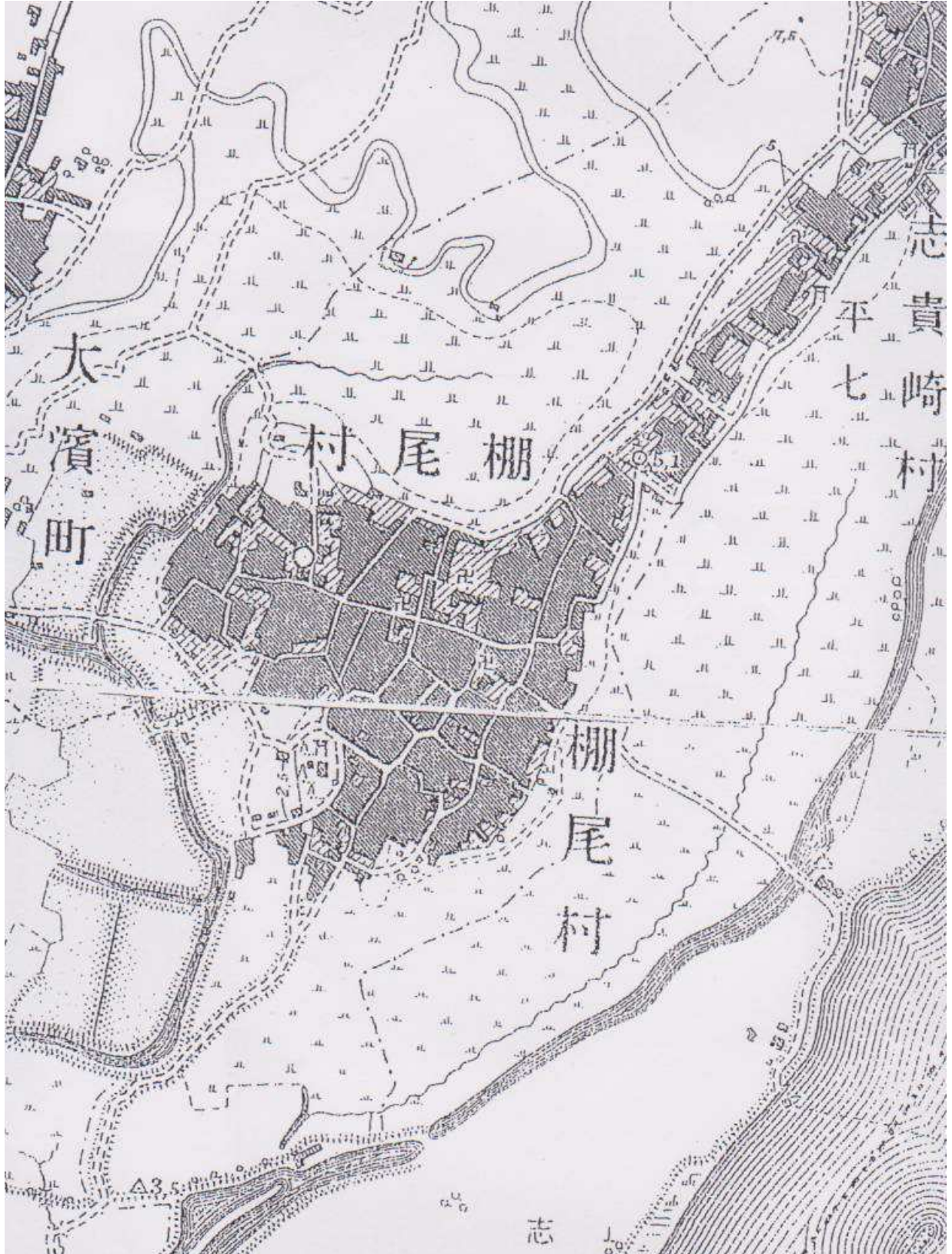
特にこの時代は、まちの中で道路の新設、拡幅工事が盛んに実施された。毘沙門通りが今の幅員に拡幅されたのを始め、現在の棚尾の道路の多くが建設され、その後の商工業発展の基礎となった。それに伴い、それまで農地だった汐田町、春日町及び若宮町の東部へ、住宅地が広がっていった。

### 2 道路の整備と町の活況

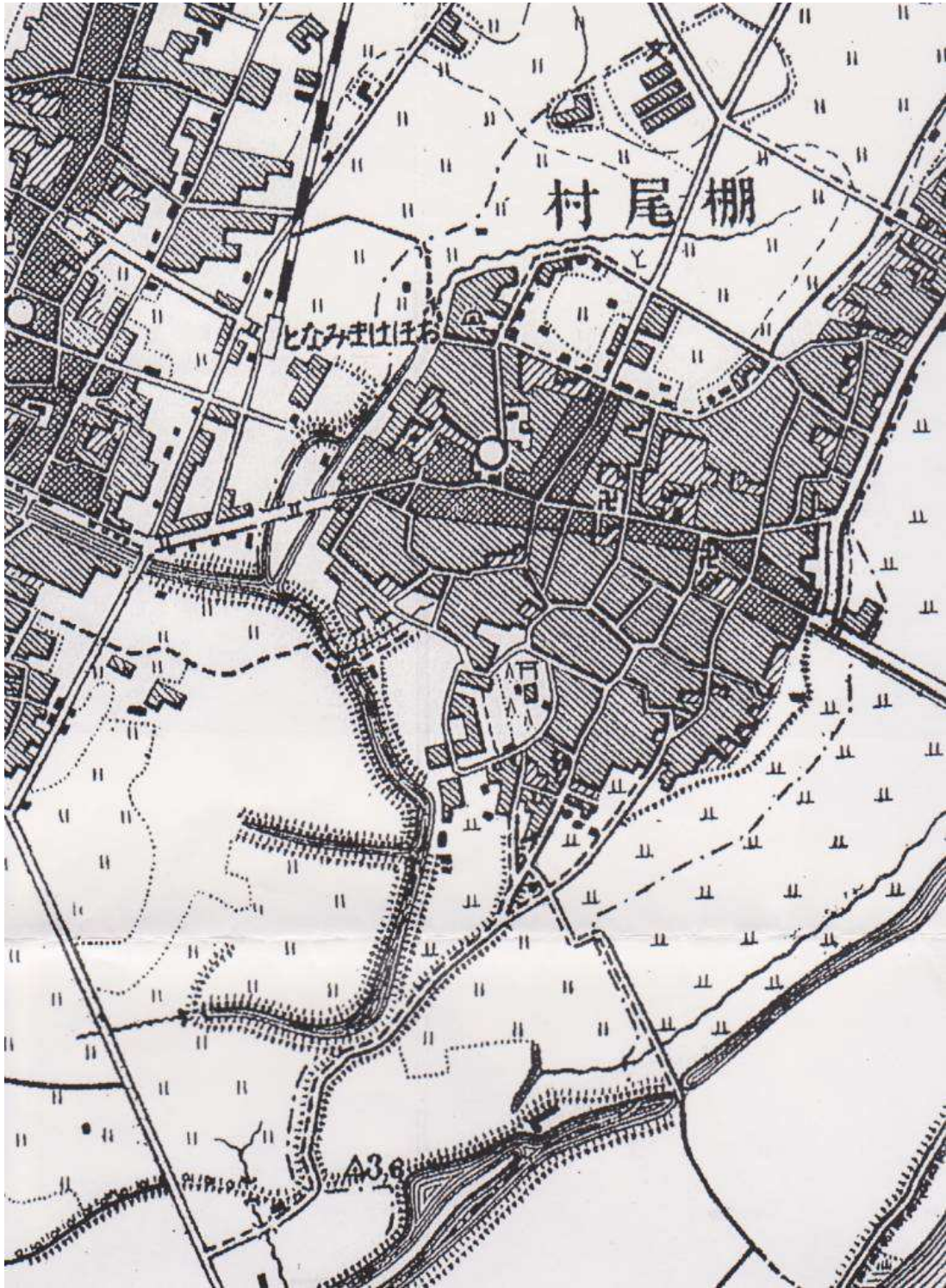
明治時代の道路建設は源氏橋から棚尾橋まで毘沙門通りの第一期整備と小学校移設に伴う小学校までの道路が主なものであった。続くこの時代は道路が盛んに建設され、産業が栄え、町が発展した。それに伴い、今まで旧市街地に住んでいた人達が、周辺の農地だった汐田町、春日町、栗山町及び若宮町の東部へ住むようになり、町の区域が拡大していった。

町の発展の様子を明治23年(1890)、大正9年(1920)及び平成22年(2010)の地図で見比べてみると次の通りである。

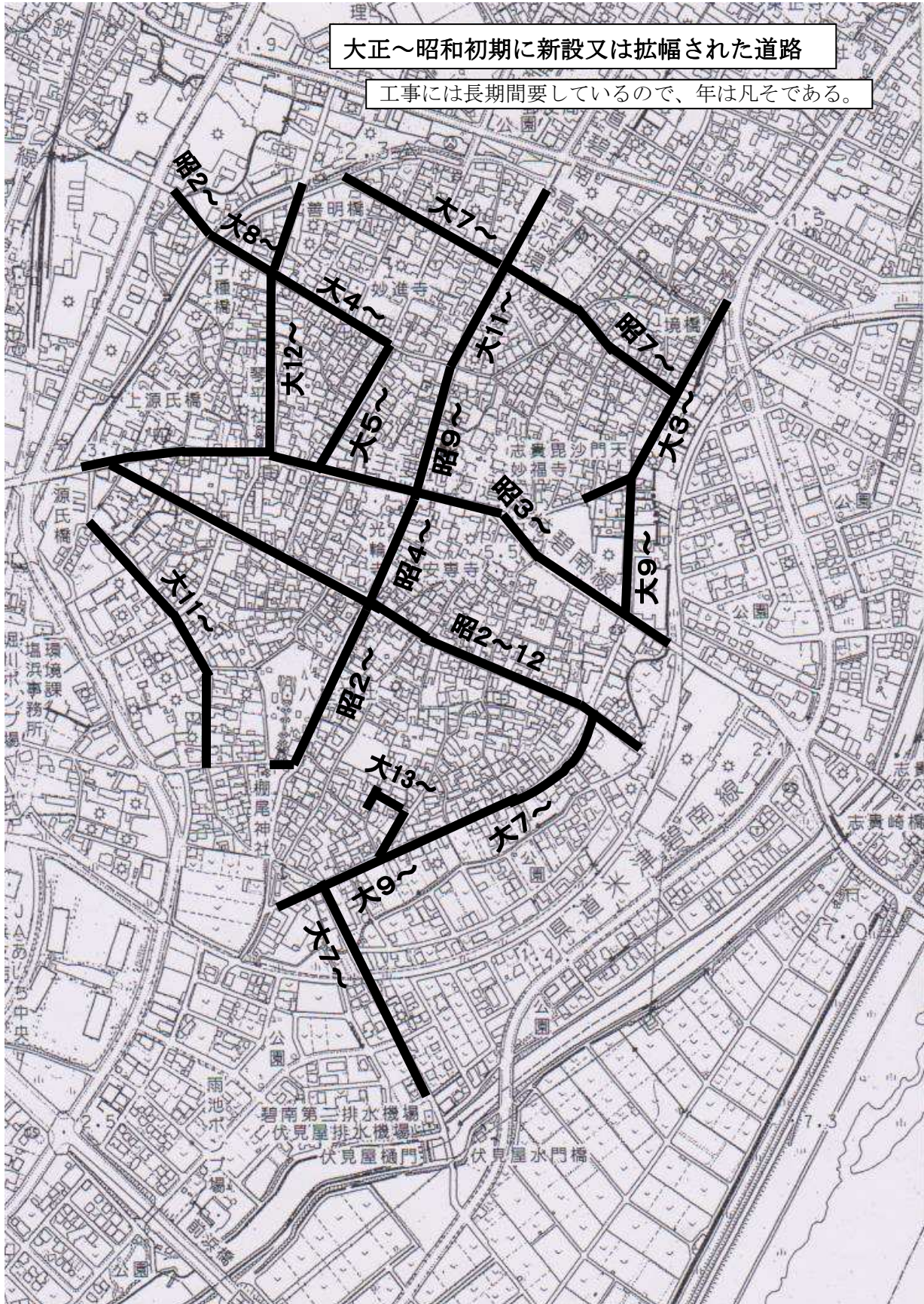
(1) 明治23年(1890)の地図



(2) 大正9年（1820）の地図



(3) 平成22年(2010)の地図に記載



### 3 町長又は村長及び町会議員又は村会議員

この期間の役職者は次の通りであった。尚、村から町への移行は大正13年（1924）1月1日である。

#### (1) 町長又は村長

就任年月日	退任年月日	氏名
明治 38/4/25	大正 6/4/24	石川 宗七
〃 6/4/25	〃 10/4/24	川口 金次郎
〃 10/4/25	〃 12/4/30	長崎 静治
〃 12/5/12	昭和 2/5/11	小笠原 半兵衛
昭和 2/5/12	〃 6/5/11	川口 金次郎
〃 6/5/12	〃 10/5/11	永井 治郎平

#### (2) 町会議員又は村会議員

大正 6～	大正 10～	大正 15～	昭和 5～	昭和 9～
名倉 吉待	榊原 九市	川口金次郎	川口金次郎	永井治郎平
斎藤安二郎	永坂仲右衛門	永坂志津松	小笠原甚之助	黒田亀三郎
杉浦 近平	杉浦 近平	石川仙太郎	小澤 幾松	永坂志津松
永坂奎兵衛	永坂奎兵衛	永坂奎兵衛	永坂奎兵衛	斎藤悦太郎
岡本開太郎	斎藤志一郎	斎藤志一郎	斎藤悦太郎	井上又三郎
生田 市郎	生田 市郎	岡本開太郎	生田 市郎	永坂藤太郎
石河 萬治	小笠原嘉太郎	永坂藤太郎	永坂藤太郎	石川由太郎
榊原 和市	小笠原半兵衛	斎藤又三郎	斎藤又三郎	長崎 重治
生田由太郎	井上 嘉一	井上 嘉一	井上 嘉一	杉浦 近平
永井治郎平	永井治郎平	永井治郎平	永井治郎平	鈴木安三郎
石川 宗七	石川 宗七	石川 宗七	小笠原勘四郎	生田松次郎
長田半太郎	長田半太郎	長田半太郎	長田助治郎	井上 嘉一
鈴木岩二郎	斎藤甚四郎	長崎 重治	杉浦 玉吉	小笠原常次郎
古久根勇蔵	古久根勇蔵	古久根勇蔵	斎藤宇三郎	小笠原仙太良
太田徳二郎	太田徳二郎	石川 梅吉	杉浦貝太郎	杉浦嘉太郎
石川 常市	永井紺四郎	名倉松太郎	名倉松太郎	平岩種治郎
名倉半太郎	平岩幸右衛門	平岩幸右衛門	平岩種治郎	名倉 諭
鳥居亀太郎	斎藤徳太郎	斎藤 倉吉	斎藤 倉吉	小塚 梅吉

#### 4 八柱神社の整備

また、この時代は八柱神社に奉納の品が相次いでいる。これはこの時期の棚尾村の産業の発展とも連動しているものと考えられる。

##### (1) 社司

大正 5 年～昭和 8 年 栗田竹次郎

昭和 8 年～昭和 12 年 斎藤千代三郎

##### (2) 氏子総代

期 間	総 代	総 代	総 代	総 代
大正 7～10 年	永坂奎兵衛	古久根勇蔵	平岩幸左エ門	生田市郎
大正 10～13 年	長崎重治	永坂奎兵衛	杉浦近平	生田市郎
大正 13 年～ 昭和 2 年	鈴木岩二郎	斎藤安二郎	川口金次郎	生田市郎（途中 交代）生田松次郎
昭和 2 年～5 年	鈴木岩二郎	斎藤安二郎	永井治郎平	生田松次郎
昭和 5 年～8 年	鈴木岩二郎	斎藤甚四郎	長崎重治	生田松次郎
昭和 8 年～11 年	斎藤甚四郎	長崎重治	古久根勇蔵	岡本開太郎

##### (3) 道路整備に関する境内の拡張

昭和 10 年八柱神社の境内が町道の開通を機に東側へ大きく増加し、現在の形になる。

「境内増加願」 愛知県碧海郡棚尾町 郷社八柱神社

##### ① 現境内坪数

1 1 6 7 坪

##### ② 増加坪数

1 0 2 5 坪 9 合 5 勺

##### ③ 増加後ノ坪数

2 1 9 2 坪 9 合 5 勺

##### ④ 増加ヲ要スル事由

当社ハ既ニ制限坪数超過致シ居ル処ナレ共元来三角形ノ狭長ナル地形ニシテ参道ノ中程ニハ神橋アリ 又燈籠・狛犬等ノ羅列厩及銅馬等ノ間ニハ雑木茂リテ例祭等数万ノ群集ヲ容ルルニ足ラス 甚ダ混雑ヲ呈シ 近年余興場等ハ境外ニ設クルコトトシタルモ尚町内ニ駐在巡查ニテ整理ニ手不足ヲ来シ 本署ヨリ応援巡查ヲ派出アルヲ毎年ノ常トスル盛況ヲ見 著シク狭隘ヲ感スルニ至レリ

而シテ隣接地ノ民家雑然トシテ其整備ニ眼ヲ覆ハシムル程モアリ カクテハ御神威ヲ冒瀆スルノ恐レアルヲ畏ミ 茲ニ多年懸案タリシ町道開通ノ機モ熟シタルヲ機

トシ土地ノ購入並ニ整備ハ已ニ完結シ 今神社地トシテ登記済ノモノトナリ居ル次第ナリ 右情状御高配ヲ仰ギ御許可ノ程ヲ希フモノナリ

尚又従来ノ社務所モ御神徳ノ隆昌ト共に甚シク狭隘ヲ来シ更ニ50坪ヲ増設シテ其ノ位置ヲ別図森之崎30、31-1、36-1、37-2番へ旧社務所移転ト共ニ建設スルノ計画成リ居リシモ 本町小学校炎上ノ為一時休止トナリタルモノニシテ近ク着手ノ気運ニ在リ

⑤ 添付書類

求積図、境内平面図、増加土地調、経費支弁方法書

右御許可相成度此段願候也 昭和10年3月1日

右郷社 八柱神社々司 斎藤千代三郎

全 氏子総代 長崎重治

全 氏子総代 斎藤甚四郎

全 氏子総代 古久根勇蔵

全 氏子総代 岡本開太郎

愛知県知事 篠原英太郎殿

5 年ごとの主な事績

(大正元年)

白瀬南極探検隊開南丸の機関長である清水光太郎帰村歓迎会 8月開催。

(〃 2年)

前年に続き第2回敬老会開催。

(〃 3年)

刈谷～大浜港間の鉄道が開通。

永井寶水が句誌「アヲミ」の発行を始める。

若宮社を八柱神社へ合祀。

本殿・幣殿外回りの玉垣奉納

(〃 4年)

大正天皇即位の大嘗祭が斎行され、県内の景勝地を披露する和歌の中で、矢作川が採り上げられる。

幣殿釣金燈籠各1基奉納 ①東西屋斎藤宇三郎 ②三代目瓦葺師永坂小兵衛

③玉垣有志中(斎藤茂吉、太田武エ門、石川新造、杉浦嘉平治、榊原小三郎、山田瀧蔵、小笠原勘六、石川清十) ④玉垣有志中石川伊三郎

幣殿釣金燈籠一対奉納(小笠原元三郎、永坂定治郎、亀嶋助市、金原増太郎、黒田寅



吉、黒田幸吉、永坂源治郎)

(〃 5年)

棚尾村外1ヶ村で雨池樋管組合が結成される。

平岩鉄工所で国産毛織機を始めて製作する。

制札板(現行事掲示板)奉納(斎藤松蔵、全仙太郎、全園太郎、全吉三郎)

(〃 6年)

高木真敬は光輪寺の庫裏を開放して棚尾幼稚園を開く。

石燈籠一対(階段下)奉納(西:杉浦佐一郎、榊原安太郎、小笠原吉太郎、小笠原萬治郎、大楠嘉市、杉浦由松、小笠原竹二郎、生田六助、綾川政吉、石川文太郎、池田文太郎、小笠原七五郎、黒田辰五郎、古久根春吉、小笠原實太郎、名倉清次郎、斎藤教信、杉浦才一郎、小笠原菊太郎、高橋清太郎、小笠原忠太郎)(東:生田竹治郎、杉浦〇〇、長崎和治郎、辻竹治郎、永坂市乃助、榊原喜市、黒田才一郎、石川吉太郎、永坂常〇助、石川市太郎、小笠原辰次郎、杉浦岩四郎、杉浦嘉次郎、生田倉吉、黒田由太郎、三島和市、榊原由太郎、石川助次郎、石川三〇郎)

拝殿履脱石を奉納(斎藤良太郎、杉浦石松、小笠原源七、小笠原徳松、池田作市、鈴木徳太郎、井上増太郎、河内米造、井上新吉、小笠原仁一郎、金原市松、山田新吉、小笠原吉之助、伊藤實太郎、井上仙太郎、杉浦浩造、三島竹治郎)

(〃 7年)

棚尾村の戸数907戸、人口5214人

(〃 8年)

棚尾橋の有料償却年期終了記念として石造の太鼓橋が奉納。

道路元標が字中道に設置。

棚尾橋改築既成同盟会が組織。

(〃 9年)

第1回国勢調査が実施。記念して八柱神社の宮比社燈籠が奉納。

狛犬一対奉納(岡崎市井上栄助、棚尾村井上栄蔵)

(〃 10年)

棚尾村に公設消防組が2組設置。

句誌「アヲミ」の謄写版刷りが発行。

氏子が千家尊福(せんげたかとみ)の社号額を奉納。

※千家尊福は「一月一日」の歌の作詞者

二代目棚尾橋が主要部分を鉄筋コンクリート造で完成。県内の模範橋となる。

太鼓橋南石燈籠一対奉納。

( 〃 1 1 年 )

句誌「アヲミ」が活版刷りとなる。

高浜虚子を招き光輪寺で句会が開催。12月20日、藤井達吉が故里を励ます。

( 〃 1 2 年 )

関東大震災発生。9月1日

正面大鳥居を奉納（永坂左衛門、榊原源助、杉浦彦助、澤田仙太郎、長田市太郎、長田坂市、金原重太郎、鈴木和一郎、辻辰治郎、杉浦此右衛門、古久根末太郎、永坂藤太郎、金原由太郎、長田彦造、長田半治郎、金原仙太郎、杉浦開一郎、永坂仙太郎）  
神苑池石垣を小笠原大三郎以下29名奉納 ※但し、この神苑池が本殿周りの池か太鼓橋の池か不明である。

( 〃 1 3 年 )

町制を施行（1月1日）

鉄製の火の見やぐら完成。

( 〃 1 4 年 )

字加須にあった役場を字善明へ移転。8月

熱田神宮宮司野田菅麿が「弥生の井」を命名。歌一首を書き添え二軸奉納

( 〃 1 5 年 )

三河鉄道大浜港～神谷駅間が開通。9月5日

(昭和2年)

棚尾駅々舎が完成。

( 〃 3 年 )

昭和天皇の御大典斎行。

琴平社氏子の福助おどりが始まる。

2代棚尾橋記念碑建立。濱口雄幸が揮毫。

高浜虚子が2度目の来棚。9月29日

玉垣内石燈籠を昭和天皇御大典記念に奉納。（東：杉浦菊一以下5名 西：三島三之助以下5名）

由緒掲示板奉納（永坂次郎、杉浦清二郎、池田蓮平、古久根義一）

( 〃 4 年 )

悠紀斎田「冬」歌碑建立。

釣金灯籠一対を小笠原元九郎以下7名奉納。

( 〃 5 年 )

杉浦治助以下14名の明治第二午会未朋友会が青銅製神馬及び神馬苑を奉納。

石垣 6 8 間奉納（名古屋市西区西柳町小笠原十太郎、当所黒田亀太郎）

玉垣（石柵） 6 8 間奉納（斎藤松蔵、全仙太郎、全園太郎、全吉三郎）

手水鉢「浄水」を奉納（小笠原富治郎、井上出三郎、小笠原四郎、杉浦吉松、長田玉吉、小笠原定治郎、小笠原與會市、斎藤市太郎、小笠原七三郎、藤田善太郎、井上仁三郎）

（〃 6 年）

光輪寺の幼稚園閉園。

棚尾神社創建（奉納品については第 2 0 回資料参照）

石燈籠一對（太鼓橋北）（タナヲ 鈴木米吉、名古屋市斎藤半治郎、大浜町中野市太郎、タナヲ永坂勘治郎、タナヲ石川〇治郎、全小笠原〇〇、全杉浦吉松、平坂町鈴木竹治郎）

（〃 8 年）

棚尾町の戸数 9 9 0 戸、人口 5, 5 9 6 人

（〃 9 年）

火災で消失した小学校の校舎再建。2 月 1 日

この頃盆踊り始まる。

字志貴屋敷に棚尾郵便局（局長長田鎮雄）が開局。

杉浦宗京第 2 1 回商工省主催工芸展に土風炉で初入選。

（〃 1 0 年）

八柱神社の境内が拡張。

## 6 町制を記念する歌

一、ここに大正 十三年 めでたき年の 初めより  
町と変わりし 我が棚尾 祝えや祝え もとともに  
二、矢作の流れ 水清く 進みて止まぬ 心もて  
農・商・工業 日に月に 進歩をはかれ 人々に

## 7 棚尾町商工会会員名簿

昭和 5 年 3 月 1 日現在

国税営業者

（横にイロハ順）

薬屋	石川甚太郎	味噌溜	石川源一	瓦	石川源次郎
瓦	石川時次郎	石炭	石川清市	コンクリート	石川驥一
自動車	石川市郎	中山コンロ	石川藤助	瓦	生田松太郎
豆腐	生田政雄	味噌溜	生田重松	中山コンロ	生田松次郎

中山コンロ	生田鶴吉	菓子	井浪作太郎	味噌溜	井上嘉一
鍛冶屋	井上又三郎	鐵工場	井上好兵衛	呉服	井上盛清
時雨	井上さか	桶	池田儀一	菓子	磯貝竹三郎
菓子	磯貝善太郎	自転車	鳥居一松	呉服	鳥居亀太郎
井戸	鳥居惣次郎	菓子	大楠嘉市	酒	長田半太郎
菓子	長田市太郎	瓦	長田栄治郎	八百屋	長田文七
八百屋	長田とめ	指物	岡田吉五郎	製粉	小笠原仙太郎
雑貨	小笠原嘉太郎	下駄	小笠原甚之助	雑貨	小笠原白松
味醂	小笠原勘四郎	味醂	小笠原峯松	八百屋	小笠原仁一郎
自転車	小笠原弥太郎	生鰻	小笠原半兵衛	八百屋	小笠原賢吉
溜	小笠原藤太郎	薬屋	大野賢友	米穀	加藤周市
中山コンロ	加藤政太郎	生鰻	川口金次郎	鍛冶屋	亀嶋與吉
素麵	金子光太郎	薬雑貨	多田末吉	石炭	長崎兵作
金貸	長崎静治	瓦	永坂杢兵衛	周旋	永坂源次郎
瓦	永坂初太郎	土	永坂梅吉	溜	永坂志津松
豆腐	永坂重市	自転車	中根福松	料理	中村やい
味醂	名倉辨治	酒	永井治郎平	菓子	永井長次郎
味醂	永井彦右衛門	下駄	野々山國吉	建築請負	黒田亀三郎
飼料	小澤實太郎	製材材木	小塚梅吉	味醂	古久根勇蔵
フランキ	古久根木一	料理	古久根喜一	料理	古久根坂二郎
時雨	古久根近作	指物	寺部亀松	料理	寺部わき
瓦	榊原松五郎	瓦	榊原市松	うどん	榊原福太郎
米穀肥料	榊原和市	料理	榊原はる	薬屋	坂部武一郎
料理	澤田仙太郎	金貸	斎藤宇三郎	建築請負	斎藤與一郎
綿打	斎藤惣太郎	米穀肥料	斎藤安二郎	料理	斎藤七郎
エナメル	斎藤柳一	溜	斎藤安太郎	染物	斎藤淳治
米穀肥料	斎藤由太郎	味醂	斎藤倉吉	料理	斎藤吉治郎
酒	斎藤志一郎	土器	金原福松	八百屋	金原きん
米穀肥料	三嶋条二郎	料理	清水とみ	鐵工場	平岩幸左衛門
呉服	森つね	呉服	杉浦ゑい	雑貨呉服	杉浦俊一
米穀肥料	杉浦昇一	溜	杉浦つな	菓子	杉浦石松
料理	杉浦じゅん	菓子	杉浦賢一	建築請負	杉浦喜市
雑貨呉服	杉浦旭	料理	杉浦菊松	書籍	杉浦三平
雑貨	杉浦徳太郎	味醂	杉浦定次郎	呉服	杉浦近平
味醂	杉浦正一	綿打	杉浦玉吉	呉服	杉浦やと
時雨佃煮	杉浦佐一郎	土	鈴木安三郎	周旋	鈴木仙二郎
溜	丸三合資会社	漬物	丸太合名会社	鋳物	太田合資会社
碧海銀行棚尾出張所		額田銀行棚尾出張所		溜	古源合資会社